

# 慢性膝痛を有する高齢者に対する円皮鍼の短期的効果の検討

渡邊淳一<sup>1)</sup>, 塩田琴美<sup>2)</sup>, 石井香織<sup>2)</sup> 柴田愛<sup>3)</sup>, 光武誠吾<sup>4)</sup>, 岡浩一郎<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>早稲田大学総合研究機構エルダリーヘルス研究所

<sup>2)</sup>早稲田大学スポーツ科学学術院

<sup>3)</sup>筑波大学体育系

<sup>4)</sup>早稲田大学スポーツ科学研究センター

キーワード：円皮鍼，高齢者，膝痛，疾患特異的 QOL，介護予防

## 要約

**【目的】** 慢性の膝痛を有する高齢者に対し，円皮鍼が膝痛と疾患特異的 QOL に与える影響を明らかにするとともに，日常生活のどのような動作に影響を及ぼすかについて検討することを目的とした。

**【方法】** 対象は地域在住の慢性の膝痛を有する 65 歳以上の高齢者 24 名(平均年齢 79.2±5.2 歳)であった。研究の手順は介入前評価，円皮鍼介入，介入後評価(介入当日と二日後)，円皮鍼抜去の順に実施した。質問紙への記入は介入前と介入後評価時に実施した。使用鍼はセイリン社製 PYONEX(鍼体長 0.6 mm，鍼体径 0.2 mm)であり，疼痛の強い側の鷲足部，膝内側関節裂隙部，大腿骨内側上顆周囲の合計 5 カ所に二日間貼り付けた。測定項目は，Visual analog scale (VAS)，日本語版膝機能評価表(準 WOMAC)および有害事象に関するアンケートとした。また，準 WOMAC 機能スコア 17 項目の順序尺度の平均値からランク付けを行い，各々の動作に対する円皮鍼の影響を統計学的に検討した。統計解析は，介入前評価と介入当日および介入二日後評価の比較をフリードマン検定にて行い，多重比較検定はホルムの修正によるウィルコクソン検定を実施した。統計学的有意差の判定は，有意水準 5%未満とした。

**【結果】** 介入前評価に対し，VAS の動作時痛は，介入後評価に有意差が認められた。準 WOMAC(総合スコア・痛みスコア・機能スコア)は，介入後評価に有意差が認められた。機能スコア 17 項目は，「階段を降りる」，「階段を昇る」，「椅子から立ち上がる」，「立っている」の 4 項目に有意差が認められた。有害事象は円皮鍼による痒みが 1 名，鍼による違和感が 1 名に認められた。

**【結論】** 円皮鍼は主観的な膝痛，疾患特異的 QOL を改善できる可能性があり，安全で副作用の少ない有益な治療手段の一つであることが示唆された。

スポーツ科学研究, 11, 236-249, 2014年, 受付日: 2014年3月9日, 受理日: 2014年10月22日

連絡先: 渡邊淳一 〒359-1192 所沢市三ヶ島 2-579-15 早稲田大学スポーツ科学学術院

岡浩一郎研究室 watanabe@kurenai.waseda.jp